

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900218		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホームたちばな	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県宮崎市高岡町内山2407番地3		
自己評価作成日	平成26年9月27日	評価結果市町村受理日	平成26年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kihon=true&JigvosyoCd=4571900218-00&PrefCd=45&Version=0.02

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・各ユニットの理念を掲示し、意識付けを行い、本人の気持ちに寄り添った個別ケアを心掛けている。
 ・残存能力を把握し、生活リハ等(季節に合った作品作り)、維持・向上に努めている。
 ・できる限りの感染予防対策を行い、積極的に医療機関との連携を図り、健康管理に努めている。
 ・こまめな状態報告等を行い、家族との信頼関係構築に努めている。
 会議、行事の家族参加、面会が多くあり、利用者との共有時間をとってもらっている。
 家族の意見が聞ける環境作りにも努めていて、家族の意見も反映する努力をしている。
 利用者と家族の思い出作りの為に、写真撮影にも力を入れている。
 ・季節毎の行事を計画し、季節感を堪能して貰えるよう心掛けている(菜園での花や野菜づくり、園内装飾の工夫)。
 ・園内・外研修に多く参加し、定例研修会での報告の場を設け、全職員の質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域の福祉に寄与し、医療保健との連携の下、利用者の尊厳に配慮した自立支援サービスを提供する」という法人の基本理念の下、各ユニットごとに理念を掲げ、支援に努めている。
 法人の病院や介護施設が併設されており、緊急時や平常時を問わず、協力体制が構築されている。
 家族や職員の意見・要望は、積極的に運営に反映されている。
 例えば、法人共通の献立に対して、毎日事業所ごとに、調味料も含めて、食材の全品を分配するのに多大な時間を要していたが、一部配食を導入し、支援にあたる時間を増やすことができた。
 緊急避難用の滑り台や遊歩道が新設された。
 居室を和室から洋室へ改修し、生活のしやすさが得られたなどである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を、定例研修会時に唱和し、共有している。ユニットの理念は職員トイレに掲示し、職員間で共有し、意識して実践するように努めている。		法人の基本理念を実現するために、理解しやすいユニット理念を掲げている。定例会やミーティングで共有し、休憩室やトイレなど、個々の職員の目に入る場所に掲示し、理念に基づく介護が実践されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事を通して交流している。利用者との買い物は、町内に行くようにしている。		法人主催の夏祭りは地域の参加者も多く、交流の機会となっている。法人内の他事業所と共同の運動会や敬老会、地域の三世代交流祭りに参加するなど、主に行事を通して地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	数名の職員がキャラバンメイトのフォローアップ研修に毎年参加し、知識向上に努めているが、そのことが地域貢献に活かすまでには至っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者より報告を受け、対応するようにしている。		家族代表、地域包括支援センター、民生委員、老人クラブ連合会の出席がある。地区の祭りなどの行事に関する情報を、利用者のサービスに取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、CMが、市役所の実地監査の助言に対して、施設の取り組みの相談を行う。また、数名の職員が地域のネットワーク会議に参加し、情報交換を行っている。		今年度行われた行政指導時の指導事項に対する取組の報告や相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針で身体拘束を禁止している為、全職員が身体拘束をしてはいけないことを自覚して行っていない。職場研修でも身体拘束についての研修を受けている。		法人全体で身体拘束を禁止し、職員への研修も徹底し、職員も自覚している。管理者（リーダー）は、職員の言葉かけや介護方法に注意を払い、拘束をしないケアに取り組んでいることを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内・外研修に参加した職員より報告を受け、学び、防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で得た知識を基に、御家族の相談を受け、関係機関を紹介する等を行う。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つ説明を行い、理解の認識を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する要望を話す機会は少ないが、行事参加後の意見を次の行事に活かすことはある。		畳敷きで布団使用のユニットでは、家族から衛生上や起居動作が困難と、ベッド使用の要望があり、全ての居室をフローリングでベッド使用に改造した。利用者及び職員の介護にも良い結果が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者に伝える機会があり、検討してもらっている。		利用者に寄り添う時間を確保するための課題となっていた食材の分配を廃止し、勤務時間帯を変更したことで時間が捻出された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課があり、面談を行い、昇給等もある。要望の条件によって、全職員で話し合い、反映してもらえることもある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験に見合った多くの研修に参加させてもらっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、交流する機会はあるが、訪問等は行っていない。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、出来る限りのケアを行い、安全で安心な生活ができるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞き、ケアに役立てたり等、コミュニケーションを多く図り、関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要とする支援を利用者や家族とのコミュニケーションの中から見極め、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員中心となってしまうことがあるが、話し合いを行い、その人らしく生活できるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力が得られるよう、家族に対して状態や状況をすぐに報告している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会がある方は限られている。		法人のデイサービス利用の知人を訪ねたり、大型のスーパーに立ち寄ったりしている。家族参加型の「ふれあい企画」を年3回実施したことで、情報も増え、利用者と家族との関係も一層よくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話は、難しい方が多いが、職員が間に入ることで行えることもある。ホールのソファに座り、話されている方もいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の相談等はないが、辰元病院に入院された方は様子を見に行ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿えるように支援し、出来る限り制限のないようにしている。困難な場合は家族と話し合い、検討している。		日々の関わりの中で、意向を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。カンファレンスやミーティングなどで、意向の把握について職員で取り組み、その人らしい暮らしの支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りを多く行い、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日違う為、利用者の状態、状況報告を、職員間で十分に行えるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を取り入れ、計画を作成している。		短期目標は3か月、長期目標は6か月ごとの見直しを行っている。担当者会議には、本人や家族、介護支援専門員、管理者、担当職員が一同に会し、それぞれの意見を計画作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を毎月まとめを記入し、それを活かし、プランに反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応時の反応等を記録していくようにしている。			

宮崎県宮崎市高岡町 グループホームたちばな(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報の中から地域資源を把握し、本人に合わせ、安全で安心な生活ができるようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に添えるよう、かかりつけ医との連携を図っている。		法人の理念である、医療機関との連携の説明は行っている。かかりつけ医は本人や家族で決定している。敷地内の法人での受診には、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの異変にも気付けるよう、観察を十分にいき、かかりつけ医、看護師に報告を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーにて情報の共有を行い、入院後も定期的に様子を見に行くようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、家族の意向を聞いている。		法人の基本姿勢は、「病院や施設での延命処置は実施しない」と明言しており、ホームでの看取りの実績はない。利用者の状態により、併設された施設への移動ができることを、入居時の重要事項説明時に書面にて説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受けた職員が定例研修会で実践し、勉強している。併設施設の看護師による救急対応方法等を教えてもらっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練や定期的に夜間想定訓練を行っている。地域の人を呼ぶまでには至っていない。		避難用の遊歩道と、3階からの避難に滑り台を設置した。滑り台は敷地の条件で急勾配のため、利用者が使うことに職員は不安を感じている。1次避難場所を決めているが、出火場所では不適な場合もある。	職員は出火場所ごとの1次避難場所を熟知し、応援者に指示し、安否確認をすることが必要である。滑り台の利用を含め、災害ごとのマニュアルを見直し、手順を確認することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行うようにしている。		利用者一人ひとりの生活歴や職歴を尊重し、人格や誇りを傷つけないよう、声掛けに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や行動を観察し、話せる場を作り、思いや希望を傾聴している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりや都合を優先してしまう場合もあるが、出来る限り希望に添い、本人のペースを大事にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めを要望にて行っている。入浴準備も出来る方は自分で行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、盛り付け等は、毎日行っていないが、焼きそば作り等の行事食の時には、一緒に行っている。		炊飯と汁物、行事食はホームで調理し、主菜は配食に変更し、食事介助の職員が同席している。職員は、利用者と準備や片づけなどのできることを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量の確認を行っている。体調不良時等、食思低下がある場合、かかりつけ医の病院へ受診し、医師の指示に従っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殆どの方が声掛けにて自立しているが、介助の方は、職員間で話し合い、検討し、口腔ケアの介助をしている。			

宮崎県宮崎市高岡町 グループホームたちばな(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツ使用者4名に対しては、布パンツが継続出来るように、夜間はポータブルトイレをベッド横に設置したり、介助者と同様に排泄時間をチェックし、排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないように心掛けて、トイレの誘導を行っている。		排せつパターンを把握することで、気持ちよい排せつに取り組み、布パンツを継続できるよう支援している。夜間はポータブルトイレを使用するなど、工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を職員間で話し合い、排便チェックを行い、把握に努め、2日目には下剤服用、3日目には排便できるように対応している。昔より水分嫌いな利用者に対しては、家族面会時に家族より本人に水分をとるように話してもらっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事等もある為、入浴日時は職員で決めている。入浴の声掛けに拒否がある場合は、時間をずらし、再度声掛けしたり、別の日に入浴してもらっている。		おおむね週2回の入浴であるが、希望によっては柔軟に対応している。季節風呂として、菖蒲湯やゆず湯にして、利用者の楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「疲れた、眠りたい」と言われた時は、居室でゆっくり休んでもらい、本人のペースに合わせ生活している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりケース記録に服薬内容が添付しており、確認している。服薬時には名前を呼び、日付けを確認し、誤薬防止に努め、症状の変化観察を記録し、定期受診時に医師へ上申している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のレベルに見合った作業のおしぼり、洗濯物たたみ、食器洗い作業を提供し、自分の役割と思ってもらっている。また、塗り絵や貼り絵、はな紙丸め、壁画作りを楽しんで行って、気分転換となっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人よりどこどこに行きたい、買物に行きたい等の訴え時は、なるべく要望に沿い支援している。また、家族へ、散歩や自宅外泊、墓参り協力の依頼を行っている。		スーパーに買い物とドライブを兼ねて外出の機会をつくっている。家族の協力による外出を「ふれあいドライブ」と称して、家族との触れ合いを勧めている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理は行っていない。買い物に行きたいと要望がある時には、職員が同行して本人の欲しいものを選んでもらい、支払いは職員が本人の前で行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙が書ける方には、書いてもらって職員が出している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、利用者が作った季節に合った作品を展示したり、玄関脇にはスナップ写真を掲示している。		ホームは円形の設計で、中央にリビング、放射状に居室があり、部屋の状況が把握しやすい。天窓からの日差しが強く高温になっていたが、スクリーンを取り付け、緩和されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファがあり、利用者同士で座って会話を楽しんだりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の手作り作品や写真を飾ったり、家族より本人愛用品を持参してもらっている。		居室には、つくりつけの家具があり、利用者が使いやすいよう収納している。使い慣れた毛布や枕を持参したり、本人の好みの環境になるよう家族の協力の下、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかるように表示したり、本人の居室入口に名前や写真を掲示している。			